

患者移乗における取り組み

○松徳 美穂¹⁾、情家 俊和¹⁾、山下 尚志¹⁾、薬師神 佳代¹⁾、岸本 幸治¹⁾、中平 久子¹⁾、林 正徳²⁾、
楠 美鈴²⁾、松本 志織²⁾、毛利 久美子²⁾

市立宇和島病院

¹⁾放射線科、²⁾看護部救急外来

【背景】

全国的に女性技師が増加傾向にあり、当院でも2020年度から2024年度にかけて女性技師が3名増員したことで現在6名の技師が在籍している。女性技師より時間外業務を行う上での不安要素としてパワー不足が挙げられた。実際、私自身も当直時間帯の患者移乗時に力不足を感じていた。そこで、時間外業務における患者移乗方法について見直しを行い、現状改善に努める必要があると考える。

【目的】

CT検査室における患者移乗時の力不足を補える方法をみつける。

【方法】

現状把握とアンケート実施(対象:放射線技師23人、看護師16人)。アンケート結果を踏まえた改善策を考案し、新しい移乗方法で試運転を開始する。

【使用物品】

当院ではスライディングボードとして帝人製のラクラックス(図1)を使用している。CT検査室には、芯材ありと芯材なしの2種類のラクラックスが常備されており芯材なしは柔らかい材質である。

ユニット断面図

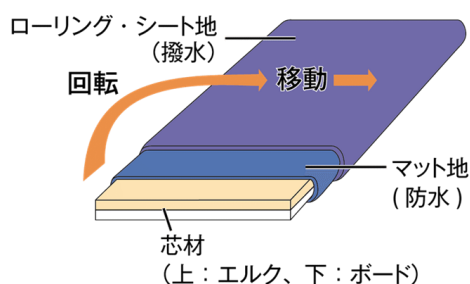


図1. ラクラックスの構造



図2. 左: 芯材あり



図2. 右: 芯材なし

【ラクラックスの正しい使用方法】

患者の下にラクラックスを敷き込みローリングシートにより患者を滑らせる。(図3)

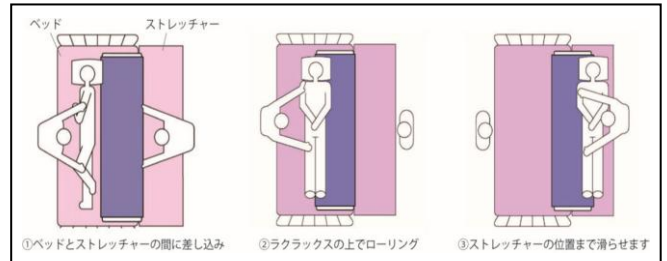


図3. ラクラックスの正しい使用方法

【従来の移乗方法】

当院救急外来では、全てのストレッチャー上にラクラックスとシートが装備されている。ラクラックスが患者の下に既に込まれているため、本来のラクラックスの使い方ではなくバックボードとして移乗している。(図4)



図4. 従来の移乗方法

【アンケート実施】

放射線科・救急外来スタッフを対象にアンケートを行った。患者移乗で苦労した経験はあるか質問したところ、約97%が苦労した経験があるということが分かった。加えて、マンパワー不足になる夜間・休日に特に苦労するという結果となった。(図5)

アンケート結果

Q.患者移乗で苦労した経験はありますか？

- ・患者の体格が大きい
- ・夜間・休日のマンパワー不足
- ・検査台のくぼみや段差に引っかかる
- ・ラクラックスの中板が分裂しているため上手く移動できない
- ・ルート・モニター類を引っ張る危険性



図5. アンケート結果

【検討会実施】

放射線科・救急外来スタッフで検討会を実施。アンケートで回答があった移乗方法を試行錯誤した結果、2つの移乗方法を新しく考案した。

【移乗方法】

・方法①従来の移乗方法

(上記)

・方法②ラクラックス芯材なしを敷き込みラクラックごとスライディングさせる(図6)

CT検査室にある芯材なしのラクラックスを敷き込みスライディングする。従来の方法よりも楽に移乗でき、ラクラックスがバックボードとしても機能する。また芯材なしのラクラックスがCT寝台からはみ出た場合は抜きとる必要がなく、CT検査台の固定バンドと一緒に巻き付けることによって検査に支障をきたさない。



図6. 方法2の移乗方法

・方法③ラクラックス芯材ありを横並べにおきシートでスライディングさせる(図7)

CT検査室にある芯材ありのラクラックスを並べシートをスライディングする。従来の方法よりも楽に移乗でき、シートを掴めるため引っ張る側の力が入りやすい。ただし、芯材ありのラクラックスを使用しているため移乗後は抜きとる必要がある。注意点は、ラクラックスの間に隙間があると患者の背側を痛める可能性がある。



図7. 方法3の移乗方法

【結果】

方法①②はラクラックスがあることで患者の背側が守れ、バックボードとしても移乗可能。力と持ちやすさについて、方法①②はラクラックスが掴みにくい。方法③はシートを引っ張れるためラクラックスよりも持ちやすく少ない力で移乗可能。移乗時の衝撃は患者役の意見を記載。(表1)

	方法① 従来通りバックボード として使用	方法② ラクラックス芯材なし を敷き込み スライディング	方法③ ラクラックス芯材あり を並べシートで スライディング
バックボード として使用	◎	◎	△
力(移乗のしやすさ)	△	○	◎
持ちやすさ(掴みやすさ)	△	△	◎
移乗時の衝撃	強	弱	弱

表1. 検討結果

【考察】

方法①②③とはっきりとしたパターン化ができ、救急外来と移乗方法を共有できたため声掛け一つでスムーズに移乗できるようになった。3つの方法それぞれメリット、デメリットがあるため状況に応じて使い分けが必要がある。

【結語】

CT検査室において患者移乗時の力不足を補える方法をみつけることができた。

また、放射線科内だけでなく救急外来看護師とも意見交換する場を積極的に設けたことで、以前より業務内外でのコミュニケーションが取りやすくなった。

今後への展望、チーム医療として業務改善やSTAT画像報告などが期待できる。

【参考文献】

1. 中村 雅美, 中井 雄一, 先山 耕史, 尾崎 道雄, 崔 昌五, 佐藤 久弥, 高橋 俊行, 渡邊 裕之, 加藤 京一. 女性技師の働く環境に関する意識調査. 日放技会誌 2024; 71:254-264.